

「知事とのフレッシュトーク」（平成25年11月21日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成25年11月21日（木）に弘前市の県立弘前工業高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

青森県立弘前工業高等学校の概要

明治43年に青森県立工業学校として創設（青森県初の工業高等学校）され、昭和23年に現在の青森県立弘前工業高等学校と改称。

弘前公園に隣接した抜群の環境の中にあり、技術の進展、発展に対応できる施設・設備を有する全国有数の伝統校である。

全日制（8学科、第1学年は7学科）798名、定時制（1学科）73名が学んでいる。
（生徒数は平成25年5月1日現在）

◆実習棟見学◆

会場到着後、知事は実習棟を見学しました。



◆開催◆

【校長歓迎のことば】

三村知事をお迎えして、このように「知事とのフレッシュトーク」を開催できることを大変嬉しく思うとともに、御来校を心から感謝いたします。本校では、「品性は力なり、勤労は使命なり、常に汝の最善を尽くせ」という校訓のもと、生徒たちは勉学、部活動、そして工業高校の本分であるものづくりや資格取得に日々励んでいます。本日は、本県の先頭に立ち、奮闘されている三村知事から、その熱い思いを直接伺うことができる機会であり、全校生徒がワクワクしています。生徒諸君におかれましても、今後の青森県の未来を担う人材になることを誓うとともに、今回の機会を有意義なものとしていただくようお願いいたします。

【学校紹介】

司会（電子機械科3年・男子）

ここで、知事に本校について少しだけ紹介したいと思います。本校は今年で創立103年を迎える県内最古の工業高校です。本校を一言で表現すると、ずばり「文武両道」という言葉が当てはまると思います。現在、約800人の全校生徒が知事に熱い視線を送っていますが、この800人全員が複数の資格を取得しており、平均で1人5個以上の資格を取得しています。

また、多くの部活動が県で上位の成績を収めています。ボクシング部は現在県大会3連覇中、今年度の高校総体県予選では、バレーボール、弓道、テニス、軟式野球などが優勝争いに絡んでいます。学年の3分の1が進学、3分の2が就職を希望し、いち早く目標を達成する学校です。

【知事あいさつ】

フレッシュトークでは、5年ぶりに弘前工業高校に帰ってきました。生徒の皆さんそれぞれが、生き生きと文武両道を実践し、また、資格を取るために全力で学んでくれていることを嬉しく思います。弘前工業高校は、103年の伝統があり、県庁にも皆さんの先輩がたくさんいますが、今日は諸君と熱く語り合いたいと思いますので、よろしくお願いします。



【意見交換】

発言者1（建築科3年・男子）

東京オリンピック招致と本県のスポーツ振興について、知事にお伺いします。2020年の東京オリンピック招致が成功し、東京に約半世紀ぶりに、平和の祭典オリンピックがやってきます。日本全国がこのニュースで歓喜に湧き、招致団の感激の涙と安堵の表情が全国に放映されました。また、「お・も・て・な・し」もブームとなりました。国民の喜びの正体は、世界レベルのトッププレーを身近で観戦できるという喜びと同時に、このオリンピックをきっかけに長く続いていた景気低迷から脱出するという経済効果への期待も大きいと思います。これで給料が上がるかも、物が売れるかもという期待です。一説には、その経済効果は数兆円とも百兆円以上とも言われています。

そこで、2020年東京オリンピックに県民全体として参加し、盛り上げるためにも、青森県からオリンピック選手を一人でも多く輩出する競技者育成プロジェクトを立ち上げてはいかがでしょうか。あと7年という育成期間があります。例えば、過去のオリンピック選手をコーチに招いたり、実業団チームと高校生の練習試合を行ったり、小・中学生チームの海外遠征支援等、青森県のスポーツ振興という観点からも、県として世界に通用する競技者の育成に力を入れてはどうでしょうか。

知事

2020年の東京オリンピック開催については、全国知事会でも話題となっています。

前回の東京オリンピックは、私が小学校2年生の時に開催されました。十和田の国道で見た聖火リレーの絵を描いて、賞をもらったことを今でも覚えています。当時も日本中が盛り上がり、白黒テレビで開会式の様子を見て感動したりするなど、子どもながら日本も良い国になるんだろうなと思いました。またオリンピックを身近で見られるので、とても嬉しく思っています。

今回のオリンピックには、青森県からも選手としてたくさんの人たちが参加してほしいと思っています。前大会のロンドンオリンピックでは、女子レスリングで金メダルを獲得した小原選手や伊調選手をはじめ、多くの青森県ゆかりのアスリートが活躍してくれました。伊調選手のお姉さんもオリンピックの銀メダリストでしたが、現在は八戸の高校で教員をしています。このように、故郷に帰って来たいという一流アスリートの方にどんどん指導してもらい、次世代のオリンピック選手を育てたいと考えています。また、オリンピックで活躍したアスリートや指導者などに集まってもらい、平成24年に「あおもりアスリートネットワーク」という組織を立ち上げ、各学校に指導に行ってもらうことで選手を育成していこうという取組も行っています。

また、オリンピック本番前のトレーニングや合宿など、海外から観戦に来る観光客の誘致などについても、現在検討が始まっています。



企画政策部次長

補足をいたします。例えば、オリンピック本番を迎える前に、比較的涼しい青森で様々な施設を使って合宿をしてもらったり、観光客を乗せて日本に来る大型客船に青森港へ寄港してもらい、青森を満喫していただいた後、東北新幹線などで東京に観戦に行き、また大型客船で帰ってもらうこともできるのではないかとということで、県としても検討を始めています。幸い、青森空港にはソウル便の定期路線が就航していますので、国際線も活用しながら、世界に向けて青森への誘致がPRできれば、オリンピック開催を契機に、青森県だけではなく、東日本大震災からの復興に取り組んでいる東北全体へと効果が波及するのではないかと思います。

知事

東北全体にもオリンピックの経済効果が波及するように、我々としてもスポーツの部分だけではなく、経済の部分も含めて取り組んでいこうと思っています。

あなたの将来の夢は何ですか。

発言者 1

将来は鉄筋コンクリート構造物を作る現場監督者になりたいと考えています。

知事

県庁では、近い将来本館を、6階建てから5階建てに減らすという画期的な工事をする
ことになっています。私自身ものすごく興味があります。工事が始まったら、ぜひ様子
を見に来てください。

発言者 2（電気科3年・男子）

知事に助言をいただきたいと思います。多くのメディアに登場されている知事ですが、
いつも堂々としていて、また、明るくハツラツとしているようにお見受けします。記者か
らマイクを向けられても、決して緊張することなくスラスラと回答しています。知事は「あ
がる」「緊張する」「真っ白になる」「ドキドキする」といった、いわゆる緊張してしまうこ
とはないのでしょうか。

現在、私の一番の悩みは、この「あがる」「緊張する」の克服です。私ももうすぐ高校卒
業となります。新しい生活の中では自分の意見を求められたり、考えを求められたりする
こともあると思います。私は人前に出ると、どうしても思っていることや考えていること
の半分も言えず、いつも自己嫌悪に陥ります。おそらく県民で最もメディアに登場し、幾
多の修羅場をくぐり抜けてきた知事だからこそ「あがらない」方法を教えていただけな
いでしょうか。

知事

「あがらない」ためには、誰も悪意を持って話を聞いてくるわけではないというふう
に思えばいいのではないのでしょうか。例えば、面接の時、面接官は皆さんのいいところを引
き出したいと思って質問します。ですので、平常心でいればいいと思います。

また、「真面目に答えよう。」と思うと、何となく気持ちもおかしくなってしまうよう
になるので、一步下がって、落ち着いてみると緊張もなくなると思います。私は、マスコミ
からいろいろな取材を受けますが、県庁の幹部職員からは、「知事、余計なことを言い過ぎ
ないでください。」とお願いされることが多いので、苦労しています。

ここで、県民局の職員にも秘訣を教えてください。

中南地域県民局地域整備部長

私もあがり症なので、開き直って話すのが一番いいと思います。

中南地域県民局地域農林水産部長

私も今あがっています。あがらないようにしようと思うと、かえって緊張してしまうの
で、緊張するものだという開き直りが大事だと思います。

中南地域県民局長

私はどちらかというと無口なので、はっきり言ってあがり症です。でも、仕事柄人前に

出て話をする事で、次第に口もなめらかになってきます。あとは、例えば人の顔をりんごだと思って話をする、意外と気軽に話せるかもしれません。

知事

本人にしてみれば、大事な悩みだと思いますが、県庁の皆さんが言うように、開き直って慣れるしかないと思います。一歩下がってみて、例えば、20%くらいは別なことを考えたりすると、気持ちにもゆとりが出てくるのではないのでしょうか。

あなたの将来の夢は何ですか。

発言者 2

将来は電気関係の職に就いて、多くの人のために役に立ちたいと思っています。

知事

電気は世の中でとても役に立っていると思います。今後も勉強に励んでください。

発言者 3（機械科 3 年・男子）

先日、我が家でテレビを購入しました。我が家で初めての薄型テレビということで、家族の興奮は最高潮でした。さっそく新しいリモコンを手にしてスイッチを入れたところ、今までのテレビとは全然違い、その美しさに感動しました。

ところで、ITが進歩する中、テレビ以外にも様々な情報発信ツールが出てきていますが、このような技術の進歩に伴い、青森県として独自に県の情報などを全国に発信する試みはなされているのでしょうか。なされているとすれば、県民はどのような方法で全国に発信されている県の情報を知ることができるのでしょうか。また、知事は青森県が全国に発信すべき最優先の情報は何だとお考えですか。

知事

青森県が最優先に発信すべき情報についてですが、全国、世界中の人に知ってほしいのは、「青森の正直」、「青森の本物」ということです。りんごを見てわかるように、正直に手間暇をかけて、どこに出しても恥ずかしくない本物のりんごを作っています。全ての産業においてもそうですが、そのような青森の正直と本物を発信したいと思っています。

県が行っている独自の取組についての質問がありました。青森県では、県庁の職員が出したアイデアを職員自らが実践する「庁内ベンチャー事業」を行っています。そのベンチャー事業の中で、「青森県庁ライブコミュニケーション推進事業」という取組があり、「あおもり県庁なう」という番組を制作・発信しています。3名の県庁職員が毎日取材をして、明日県庁ではこんなことがありますという紹介をしたり、県職員が毎日出演して、私たちの課では今度こんなキャンペーンをしますと



いったPRをしています。ソーシャルメディアを使って毎日（月～金、祝日を除く）午後4時30分からリアルタイムでU s t r e a m配信をしていますので、視聴者からすぐ反応が届きます。

企画政策部次長

「あおもり県庁なう」は、県庁ではどのような仕事をしているのかを担当職員が自分の言葉で県民の皆さんに語りかけるように紹介する内容になっています。これは、県内だけではなく世界中どこからでも見ることができますので、その意味では世界に向けた情報発信の一つだと思います。配信をしていると、ツイッターなどですぐ質問が来ますので、その質問に対して職員が番組内で回答したり、返信をしたりするなど、双方向で情報の交流を行う、ソーシャルメディアを使った新しい広報広聴事業となっています。

知事

このように、青森県ではユビキタスに詳しい先生とも連携しながら、ICT関連の取組については、かなり進んだことをしています。

あなたの将来の夢は何ですか。

発言者3

将来、優しいパパになりたいです。

知事

優しいパパになるのは大事なことです。期待しています。

仕事の方の夢は何ですか。

発言者3

知事のためにテレビを作りたいです。

知事

例えば、くるくる巻けるようなテレビがあれば嬉しいです。頑張ってください。

発言者4（電子機械科3年・女子）

もうすぐ雪の季節がやってきますが、雪国青森県で生活する以上、冬の生活をいかに楽しむかということが大きなテーマだと思っています。ここ数年、夏は青森県とは思えないほどの猛暑、冬は豪雪と極端な気象が続いています。そこで、豪雪対策の一つとして、私は県民として知事に提案したいことがあります。それは除雪ではなく排雪体制の強化です。私の住む地域では高齢者の一人暮らしが多く、除雪後の雪片付けはとても大変です。例えば、高齢者からの希望を募り「高校生による1日排雪ボランティア」を実施してはいかがでしょうか。

また、雪を有効活用することはできないでしょうか。越冬エンジン、雪を溶かした冷水による家畜の管理など、雪のエネルギー利用に取り組んでみてはどうでしょうか。実現す

れば雪に対する会話も「今年、豪雪だばいいな」と変化し、雪国での生活も一変すると思います。

知事

地球温暖化と言われていますが、温暖化により、日本海の海水が暖められて水蒸気となり、それが山にぶつかることで、たくさん雪が降るようになりました。弘前地域は、昔は青森ほど雪が降らなかったのに、昨年、一昨年は青森より雪が多く降り積もり、驚きました。皆さんは弘前地域から通っている方が多いと思いますので、雪で苦勞したと思います。

高校生の排雪ボランティアについての提案がありました。県では、小型除雪機を町内会や学区単位で貸し出して、地域の人たちが交替して通学路等の歩道を除雪する「スクラム除雪」という取組を行っています。また、弘前市の社会福祉協議会では、一人暮らしの高齢者など除雪作業が困難な世帯を対象にしたボランティア除雪を行ったりするなど、地域で雪を除排雪する取組も行っています。抜本的には流雪溝を整備していくことも必要ですが、水をどこから取るかとか、雪を一気にたくさん詰め込まないようにする必要があるので、いろいろな課題があります。雪の問題については、お互いにできることをする必要があると思います。排雪に関しては、除雪と違って大きな機械を使わなければならないなど、高校生だけで対応するには難しい部分がありますので、現状は大人にお願いするのが妥当だと思います。

雪の活用については、りんごを雪で覆って保存する雪室や、雪の下で保存してから収穫する雪にんじんのほか、データセンターでは雪の冷気でサーバーなどの機械から出る熱を冷やす取組など、全国でいろいろな工夫が行われています。

中南地域県民局地域整備部長

除雪についてですが、県では車道を除雪する際には、ダンプトラックで除雪する方法と、路肩に雪が溜まった時に車道を拡幅するためにロータリー車で除雪するという方法の2段階で除雪をしています。基本的には朝の通勤時間前までに除雪を終えるようにしています。歩道については、知事からもお話がありましたが、県で小型除雪機を120台ほど所有しており、中南管内では28台を配備して、PTAや町内会の皆さんの協力を得ながら、また、県直営でも除雪を行っており、年間で約200キロの歩道除雪を行っています。

昨年、一昨年と2年連続で雪が多かったのですが、長期予報によると、今年も雪が多いのではないかと予想されていますので、昨年の状況を踏まえ、それぞれ道路を管理している国、県、市がいろいろと協議をしています。例えば、交通量の多い交差点は、冬になるとどうしても道路幅が狭くなり、渋滞を起しやすくなりますので、まずそれぞれの道路管理者が、できるだけ夏場と同じくらいの道路幅を確保できるように除排雪体制で協力するように申し合わせています。

また、排雪にはとてもお金がかかりますので、基本的には除雪が中心になりますが、現実にはどうしても排雪が必要なところも出てきます。その意味では、堆雪場所（雪置き場）を確保しています。弘前地域では、岩木川や平川の付近にもありますが、それだけではまだ足りません。排雪する場合は、ダンプトラックの稼働率を上げるほど排雪スピードは早くなりますし、経費も安くなるため、今年は新たに弘前のゴミ焼却場のところに堆雪場所

を設けようと計画しています。また、地域全体のどの場所にどれくらいの堆雪場があればいいのか、県としてももう少し抜本的に考えようということで、現在調査しているところです。

また、皆さんに道路の雪を片付けていただいた際、雪堤をなくするために、県では流雪溝を整備して、そこに雪を投入してもらって冬場の道路の安全確保をする取組を進めています。いずれにしても、雪がないのが一番ですので、今年の冬はトラブルが出ないようにしたいと思っています。

知事

高校生が排雪ボランティアをしたいという気持ちはとても嬉しいのですが、大きな機械を使う必要がありますので、この分野は大人に任せた方がいいかもしれません。

高校生諸君には、別のことで協力してほしいことがあります。実は、青森県のゴミリサイクル率と1人当たりのゴミ排出量は、全国のワーストになっています。ですので、リサイクル運動やゴミの分別活動などに協力してくれると嬉しいです。

将来の夢は何ですか。

発言者 4

将来、介護福祉機器を作りたいです。

知事

青森県では、医療機器、福祉機器の製造をテーマに、機器メーカーの専門の方々との勉強会をしていますので、ぜひ手伝ってください。

発言者 5 (情報技術科 3年・女子)

私は、青森県は全国で一番の県だと思っています。高校3年にもなって何の根拠もなくこのようなことは申し上げません。その理由を今から話します。

「四季折々の風景、世界遺産白神。これから世界遺産にしたい霊峰岩木と八甲田の山々。」

「海の幸、山の幸の豊富な自然産物の宝庫、青森県。」

「マグロ対決、大間対三厩対深浦。」

「津軽メロンとスイカ連合軍対六戸にんにくと東北町ながいも連合軍。運命の畑者対決。」

「少ない災害・少ない凶悪事件。つまりは安定した治安。つまりは高い県民モラル。」

「四方八方が海による様々な恩恵。見てよし、食べてよし、泳いでよし。」

「温かい人柄、人情。お隣さんにお裾分けが今も存在する我が地域。」

「ねぶた、ねぶた、三社大祭の三大祭り。五所川原立佞武多の存在感。」

「日本人の主食、心のふるさと米生産。オトメはロマンにまっしぐら。」

などなど数え上げたらきりがなほど青森県は全国に、そして世界に誇れるものが数多く存在します。私は、来春関東への就職が内定しました。これを機にもっと青森県をPRしたいと思っています。

そこで、知事が考えている青森県のPR戦略を教えてください。

知事

自分が生まれ育った故郷が好きだという気持ちでいてくれたら、日本中、世界中どこに行っても頑張ることができます。青森にはいいところが本当にたくさんあります。青森については、雪が降って寒くて大変だとか、謙遜する方が多いですが、前向きに良いところと言えることが大事だと思います。

青森県では、「まるごとあおもり情報発信チーム」という組織を作り、中央のテレビ局や雑誌・新聞社に、青森にはこんなおもしろいところがあるということを情報提供して、ニュースや記事に取り上げてもらう取組を行ってきています。その結果、首都圏や大阪などで、青森のことがたくさん紹介され、広告費を使わなくても8年間で約1,500件を超える情報がメディアに露出しています。また、「美知（みち）の国あおもり」という県内のパワースポットを紹介する冊子を作り、紹介したりしています。私は、新潮社に勤めていて本を作っていたこともあり、キャンペーンの仕方が本の売れ行きに関わってくることを知っていたので、その経験を生かして、青森県の産品や観光についてどんどん売り出してきました。

青森県には、今度北海道新幹線が開業する予定です。その時にもう一度デスティネーションキャンペーンを誘致し、いろいろな観光コンテンツを市町村と一緒に磨き上げて、青森の良さを日本全国、世界に売り出したいと思っています。また、日本以外にも海外で青森フェアを開催して、青森のPRをしています。

就職先でも、ぜひ青森の宣伝をしてくれると嬉しいです。どのような仕事に就くのですか。



発言者5

自動車の物流関係の仕事です。

知事

海外でも活躍できるように頑張ってください。

発言者6（土木科3年・男子）

私たち土木科では、道路や橋など、社会基盤の建設を学習していますが、知事に質問が2つあります。まず1つ目ですが、県が設置した橋やトンネルなどのメンテナンスはどのようにしているのでしょうか。

2つ目は、北海道新幹線開業に伴い、駅周辺の整備はどのようになるのでしょうか。また、開業を踏まえて青函交流に関してどのような取組をしているのでしょうか。

知事

青森県の県土整備部では、「橋梁アセットマネジメント」という取組を行っています。公

共事業などで作った橋が老朽化して悪くなる前にメンテナンスを行い、長寿命化による架け替えコストを削減して県民負担を減らすという画期的な仕組みを、若い職員が発案し、全国に先駆けて取り組んでいます。この取組により、今後50年間で約800億円の修繕費を縮減することができるほか、安全性も高まることが分かりました。

北海道新幹線については、今別町に奥津軽（仮称）駅ができることになっており、現在工事が進められています。県としても、お客様がより使いやすい駅となるような仕組み作りのお手伝いをしています。一番の課題は二次交通システムであり、駅に降りた方が、例えば太宰治の故郷である金木に行くにしても、襲月海岸や三厩に行くにしても、交通手段をどのように確保するかということになるので、関係者間で検討が始まっています。また、函館と青森、八戸、弘前とが連携して、津軽海峡を挟んだ観光ネットワークづくりなどを行う「ラムダプロジェクト」に取り組んでいます。（※函館と青森、八戸、弘前を結ぶギリシャ文字の‘λ（ラムダ）’となる。）北海道の道南地域と青森県とが新幹線で繋がることにより、お互いにもものすごく勢いが出てきますので、ビジネスの交流を行ったり、観光商品と一緒に作ったり、JRの重点販売を両地域で一緒に行うなど、いろいろな連携事業が始まっています。

将来の夢は何ですか。

発言者6

将来は土木系の公務員を目指しています。

知事

県庁には、弘前工業高校出身の先輩が多くいるので、もし県庁に入ったらたくさん教えてもらって、県を支える技術者になってください。

発言者7（電子科3年・女子）

「働く女性」について助言をいただきたいと思います。今年度の就職戦線の中、私も就職試験にチャレンジしました。私が受験したのは大規模な製造会社で、男子社員の数が圧倒的に多い会社です。面接が重要ということで、多くの質問に備え練習時間も十分とり、ある程度自信を持って挑みました。しかし、いざ面接が始まってみると、そのほとんどが面接官が持っている女性に対する職業観を聞かされるというものでした。「結局女性は結婚し、子どもを産み、その間休業し、休業中も会社が面倒をみる。休業した後に入社しても仕事が遅れている。であれば最初から男子社員を採用するのは当然でしょう。」という内容のお話を延々聞かされ、面接中何度か泣きそうになりましたが、ここで泣いては私の負けだと思い必死に涙をこらえました。「このままでは面接は終われない。」という思いから、最後に「もし入社させていただいたら、絶対に男子社員に負けないよう頑張ります。よろしくお願いします。」と言って面接会場から退席しました。

そこで知事に質問ですが、これからの時代、働く女性は結婚と同時に家事や子育てに重心に置くことが、県や地域としては理想だとお考えでしょうか。また、そもそも女性は何歳まで働き、どのような形で社会と関わるのが理想だとお考えでしょうか。

知事

青森県では、いろいろな企業を誘致していますし、企業で働いている女性の職員とも話をしてありますが、青森県の女性パワーはものすごく評価されています。また、医療機器の先端部分を作るなどの精密な作業は、青森の女性の指の柔らかさや、目の良さ、神経の細やかさがないと習得できません。ですので、今お話を聴いて、逆にショックを受けました。

農業では、6次産業化の取組は女性が先頭に立っていますし、VIC・ウーマンという女性リーダーもいろいろな場所で活躍しており、起業・創業に取り組んでいる例もあります。また、組織や団体の女性リーダーを育成するため、県では「あおりハンサムウーマンセミナー」を主催し、働く女性を応援しています。このように、女性の力無くして青森県の様々な産業は動いていけないと思っています。一方で、最近では、「ワーク・ライフ・バランス」という考え方も広がっており、この中で、家事や育児を積極的に行う男性を応援する取組も行っています。

男女関係なく様々な働き方があると思いますし、定年を迎えてからも、社会のために自分でNPOを立ち上げたり、ボランティアをしたり、農業を始めるなど、健康である限り、男女ともいろいろなことに関わっていくことが大事だと思いますし、県としてもそのような取組を応援する仕組みを整えています。

このほか、県では、全国から女性のリーダーが集まる「奥入瀬サミット」を開催し、女性の人財育成とネットワーク作りをしています。

将来の夢は何ですか。



発言者 7

青森でも電子機器が盛んに作られているので、私も技術をしっかりと身につけたいと考えています。

知事

日本が開発した技術には、思いがけないようなものがたくさんあります。弘前にもいろいろな特殊技術を持っている企業が多いので、青森のものづくり産業発展のために、一緒に頑張りましょう。頑張る気持ちは男性も女性も関係ありませんので、そのような気持ちを持ち続けてください。

発言者 8 (インテリア科 3年、女子)

スポーツは同一のルールにのっとり、地域や年齢に関係なく交流することができる優れた特徴を持つ文化です。今年の4月に春季大会で八戸市の高校へお邪魔しました。対戦高校と試合が終わった後、お互いの健闘をたたえ合い、対戦高校の選手たちも私たちに興味があったらしく、いろいろと話しかけられ、交流することができ、とてもすがすがしい気持ちになりました。

そこで、県内の移動を考慮した場合、県内の高校生が時間や距離を気にせず、思いっき

り部活動の合同練習や合同合宿ができるとともに、交流することもできる環境や施設をつくることはできないものでしょうか。私は、バレーボール部に所属していましたが、理想としては、5、6校が同時に合宿できる環境や施設があればいいと思います。

知事

まず、県内移動のお話がありました。合同練習や合同合宿の際は、バスで移動することもあると思いますが、青森県の課題の一つに、道路のネットワーク整備の充実が必要だということあります。東日本大震災の時に経験しましたが、弘前の給食センターや青森の仕出屋さんが作ってくれたおにぎりや弁当を八戸に運んでもらおうとしましたが、停電により道路の通行がとても危険な状態となり、車の流れが悪くなったため、日中に作った物が午前2時になってからやっと届くというようなことがありました。高規格道路、要するに幹線道路がきちんと繋がっていないと、いざという時に大変なことになるので、道路の整備は大事だと思います。

合宿できる設備については、例えば、新青森県総合運動公園や青森県立武道館、岩木青少年スポーツセンターなどには宿泊施設がありますので、各高校の日程の都合が合えば、合同合宿ができると思います。

教育庁職員

先ほど知事からもお話がありました。合同練習できる施設については、弘前地域であれば青森県立武道館や岩木青少年スポーツセンターがありますので、地元の学校であれば通えますし、遠くから来る方は泊まっていただきながら一緒に練習したり交流することができます。私も部活動でバトミントンを指導していましたが、県内の高校や北海道の高校と合同合宿をしたことがあります。このほか、各校が日程を調整して、学校の合宿所を利用している場合もあります。ですので、ぜひ部活の顧問の先生と相談したり、気になる高校の生徒に一度声をかけたりして、また、後輩にも活動を引き継いでいって、取り組んでみてはどうかと思います。

交通の面では、東北新幹線が新青森駅まで開業し、長距離を移動するには便利になっていますので、十分行き来ができると思います。

ただ、合宿する際にはお金もかかりますので、お父さんやお母さんにもきちんと説明をし、了解をいただいております。ご理解をいただくことが大事だと思います。

知事

高校生同士で交流することは楽しいですね。合宿施設もありますので、皆で声をかけ合って、利用してくれると嬉しいです。

将来の夢はなんですか。

発言者 8

保育士になることです。

知事

保育士になるために一番大切なことは、子どもが好きだということです。今は学校できちんと授業を受けて資格も取り、3年間頑張ったということを示して、それから保育士の資格を取るために、自分の人生に向かって全力で歩んでください。

知事

今日の司会お疲れ様でした。あなたの将来の夢は何ですか。

司会

建設機械を作りたいです。

知事

電子機器を使った建設機械は大事です。青森県にもおもしろい機械を作る企業がたくさんあります。今日は大変すばらしい司会でした。

【知事所感】

知事

発言してくれた8名と司会の皆さん、そして全校生徒にお礼を言いたいと思います。久しぶりに弘前工業高校に来ましたが、今日もお互いにおもいきり意見交換ができました。聴いてくれた生徒の皆さんも、仲間に拍手をしてくれたり、応援してくれていました。弘前工業高校は学校全体のチームワークがいい学校だと改めて思いました。

私自身、皆さんからいただいたアイデアや提案を、しっかりと受け止めたいと思います。今日は本当にすばらしい時間をいただくことができました。弘前工業高校の諸君に心から感謝します。ありがとうございました。



以上